







藝者生活と其内情

南町 石山 満

▲新田町明くれば家が暗み... 家明るくならて家内安全かと思はれず、熱病患者の特長の如くフラフラと紅燈暗明の街を遙ふ。

▲更ひ衣の六月に入りて彼れ一團は一入り誤美人に見ゆるならん、インキ香水の洗禮を受け、エロサーピスの効果百パーセント乎。

▲移り行く取引市場も閑... 亦たは忙し繁乎。

▲未だ櫻の花の蕾ならぬ頃雪の若松から現れ出た反動藝妓置家松の家の紅裙を一寸誤將怪して鼻下長諸君の参考に供せん。

▲副總理の小仙君は一昨年の秋の祭の頃橋家に居つた「君勇」姐さん、後身藝は野州の宮でタ、キ上げの凄麗さ。

▲ほだん箱芋の刺身と天ぶら大の好物で所謂脂肪過多の肉體美人、三四年前の甲子の鹿の子さうです。

▲小櫻君は、雪の降る越後は新發田の産で頗るサーピス觀念の強ひ妓です。

▲勇君、是れは新選組の近藤勇でない、ツイ昨年の夏頃迄、新田町の竹の家近丸と申して居つた二分の一、が出世して一本と成つたのです、松の家名花と申すも過賞ではないうです。

▲三四日前の御披露目の新妓は太郎と申します、芳紀正に十六才、藝も達者です嘘だと思ふなら呼んで御覽なさい。

▲大統領？安兵衛婆さんの最近のユニットは、大好物は御酒その飲み過ぎて病氣になり、醫者よクスリよ、若松へ急報電話よなどの大騒ぎして、か目も醒めたものか、アノ一由良之助の大樽へ鏡をかけた額を、物見が岡の御稻荷様へ奉納したとか、しなかつた急にか、口淋しさに一杯やると急に気が大きくなり「あたし

長谷川兄足下 御健全なる社運の發展を御祝ひ申上げます。世界の成金國の彼等が故郷たる平地方も非常に深刻な不景氣の風が物凄く訪るのです。各商賣の其儲けは共通改善すれば千何百圓と莫大の借入金問題と冷視過酷なる制度の改

▲三好家の○子君新緑の滴るまぬ夜は尙更に夢も短い明鳥御樂しみ様。

▲三〇〇の○さん子東京時代を偲ぶオノロケもよいでせう、然し「義務を忘れて権利の主張すさぶ浮世の人心」でターキサ島家から出た新妓「九子」は奥州仙臺は虎屋横町で煉つた藝なさうです。

▲湖月の小高君 先夜有樂座で「生々ぬ仲」を見て泣いた涙は聖く美しいものでしたね。

▲品澤の三太郎君は斷然廢業して「マヤさん」故郷に歸るとの事。

▲麻雀藝者として一流の師範役だつた仲家の小今君 仙臺は東一番町へ誤榮馨の由、泣いたアをね。

▲竹の家若蝶君 某君の縣議政戦に大馬力で應援するときはアノウさんはね「延し過ぎるよ此の短夜を更けた新田町で鼻の下」。

▲開花の○君 クライさんだつて男よ、「派手な噂の一つや二つ立てにや男の意地ぢやも一確りなさいよ」。

▲三島家から出た新妓千成君 前住地は三春庚申坂とか芳紀二九からさる十六の事、永九本から、ぬひ子、開花から花助等出た、來るもの無断に逃げるもの浮世はね？

▲東部電力會社の極端な縮小によりて需要家のみが迷惑だね改善が、改悪に成りさうです (大町官吏)

▲驛前の何んとか云ふカフエーでは生ビール一本六十錢はちと高過ぎるよ夫れに女給のサーピスが強過ぎるよ敢て一言忠告す。 (S生)

▲更生した有聲座の寫眞はヨイが、火鉢と座布團の十五錢はね一考を煩すよ。 (東風)

▲四丁目の魚市場は天下の公道を我物顔に使用して居るが、危険千萬だ、平警察署が其取締を何故に放任する乎、交通整理を斷行せよ。 (白銀町の子供の親)

▲奇人の宇佐美君縣議に出馬するの事、龍頭蛇尾か、賣藥屋の効告かね (三十三要生)

▲平〇〇同志會常任幹事とダボラを吹いて〇〇をして歩く不良〇〇を取捕れ、 (被害者の一人)

▲南町の某家の建前の時に棟梁を送り一人でよいごケチな事を云ふて、大工にナグラレた大馬鹿野郎の主人公は誰だい (一小僧)

小名濱町	小名濱西洋料理組合	小名濱西洋料理組合	幹事	赤津辰吉	小名濱登記所	佐々木善作	郡司二郎	佐々木龍若	鈴木源藏	駒場四郎	大森勇	青木貴一郎	青沼鋒太郎
------	-----------	-----------	----	------	--------	-------	------	-------	------	------	-----	-------	-------

小内外科一般

常磐線泉驛前

**佐藤醫院**

院長 佐藤信直

電話一一番

---

度量衡 計量器

吸入用酸素

酸素吸入器

**關内藥局**

電話四〇番

---

**開業廣告**

耳鼻咽喉科 專門

氣管食道科

平町字南町(元真木辯護士跡)

**増田耳鼻咽喉科醫院**

日本醫學士 増田之

(入院隨意)

---

**開院** (平町大町)

電話五〇二

**難波醫院**

醫學博士 難波睦

(入院需に應ず自炊の便あり)

---

平町田町

**高久病院**

電話五一三番